学校番号	３１２

平成 31 年度　地理歴史科

教科	地理歴史	科目	地理Ｂ	単位数	４単位	年次	３年次
使用教科書	新詳地理Ｂ（帝国書院）						
副教材等	標準高等地図―地図で読む現代社会―（帝国書院）						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

① 地図の見方を身につけ、日本や世界の様々な情報を地図化できるようになる。
② 世界の諸地域のさまざまな特徴（地形、気候など）を知り、それらが現代の日本とどのように関わっているのかを調べる。
③ ただ語句を暗記するのではなく、「なぜ？どうして？」と常に問いかけ、考えながら学習すること。

2　学習の到達目標

① １年間の地理学習を通して、グローバル社会に主体的に生きるために必要な力を身につける。
② 世界の地形、気候などの学習を通して、現代世界の地理的事象を系統地理的に考察する。
③ 世界の諸地域の特徴を、歴史的背景を踏まえて考察し，現代世界の地理的認識を養います。

3　学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a:関心・意欲・態度	b:思考・判断・表現	c:資料活用の技能	d:知識・理解
観点の趣旨	現代世界の諸地域や諸課題に興味･関心を抱き,それらを自分自身の生活との関わりから積極的に位置づけ,結びつけることができる。	地図化する過程を通じて地理的諸事象をさまざまな角度から分析し,そこから地理的概念や地理的見方･考え方を見いだすことができる。	地理学習に必要とされるさまざまな資料を収集し，それらを的確に取捨選択し，調査をすることができる。	地理的諸事象や諸地域で起こっている諸課題についてさまざまな角度から理解を深めることができる。
評価方法	定期テスト ワークシート 資料の読み取り	定期テスト ワークシート 資料の読み取り	定期テスト ワークシート 資料の読み取り	定期テスト ワークシート 資料の読み取り

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。
学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	主な評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
一学期前半	さまざまな地図と地理的技能	1.　地理情報と地図 2.　地図の活用と地域調査			○	○	a:地図や地球儀を活用して、季節や時差といった地球の特徴に対する関心が高まっている b:地域調査の目的にしたがって、適切な資料を収集し、考察を行っている c:地形図や景観写真などから、地域の特性をとらえることができる。 d:地球儀と地図の特徴の違いや、用途によってさまざまな世界地図が存在することを理解している	定期テスト ワークシート 資料の読み取り
一学期後半	現代世界の系統地理的考察	1.　自然環境 2.　資源、産業	○		○		a:人間の生活・文化と気候の関係ついて関心が高まっている b:地球温暖化や酸性雨、干ばつなどが発生する仕組みとその影響について考察している。 c:世界各国の資源埋蔵量や産業構造などを図やグラフを用いて表現している d:世界の気候区や油田、炭田などの場所などの知識を身に付けている	定期テスト ワークシート 資料の読み取り
二学期前半	現代世界の系統地理的考察	3.　人口、都市・村落 4.　生活文化、民族・宗教		○	○	○	a:世界の文化・生活習慣について、地域ごとの特徴や違いに関心が高まっている。 b:発展途上国と先進国がそれぞれ抱える人口・都市問題の違いについて、その背景を考察している。 c:人口ピラミッドなどの諸資料を正確に読み取っている。 d:人口爆発や少子高齢化の社会的背景や問題解決に向けた取り組みを理解している。	定期テスト ワークシート 資料の読み取り

二学期後半	現代世界の地誌的考察	1.　現代世界の地域区分 2.　現代世界の諸地域	○	○		○	a:世界各国の地理的特徴に基づく生活習慣の違いに関心が高まっている b:EU や NAFTA などの地域統合が参加国の経済や生活環境にどのような影響を及ぼすのかを考察している c:それぞれの国を知るために必要な諸資料を収集・分析し、各国の多様性を読み取っている。 d:主要国の位置、首都、地形、気候などの特徴を理解している。	定期テスト ワークシート 資料の読み取り
三学期	現代世界の地誌的考察	1.　現代世界と日本	○			○	a:現在の日本が抱える様々な課題について関心をもっている。 b:日本が抱える諸課題の解決への展望を表現している。 c:日本の各地域の特徴を調べるために、地形図、写真、インターネットなどを効果的に使っている。 d:日本の地理的課題に関する知識を身に付けている。	定期テスト ワークシート 資料の読み取り

※　表中の観点について　a:関心・意欲・態度　　b:思考・判断・表現
　　c:資料活用の技能　　d:知識・理解

※　年間指導計画（例）作成上の留意点

・原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において特に重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について○を付けている。